



はばたき

令和6年8月28日

文責 校長 伏見 隆一

鶴ヶ島市脚折町 4-12-1

TEL 049-286-2160



学校に子どもたちの輝く笑顔と元気な声が戻ってきました。学校では、1学期の成果と課題を踏まえ、学校教育目標、目指す学校像の達成に向けて、日々の教育活動をさらに充実させてまいります。保護者の皆様、地域の皆様、引き続き本校の教育活動にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

学校教育目標（目指す児童像）

「かしこく やさしく たくましく」

- ◎かしこい子 …… 学ぶことが楽しい ・ おもしろいと感じる
- ◎やさしい子 …… 自分自身と友だち、周りの人を大切にできる
- ◎たくましい子 …… 進んで運動できる ・ 健康に生活できる

目指す学校像（ミッション）

『未来を創る豊かな学び 夢の実現へ 長小教育』

—共に学び、成長できる豊かな学びの実現—

😊 よーし！がんばるぞ！ まずはやってみよう！ 😊

子どもたちは、それぞれに達成感を味わい、有意義な夏休みを過ごしたことと思います。人は、節目のときに「よーし！がんばるぞ。」という新たな気持ちになります。長い夏休みが終わり、改めて学校生活がスタートした今が、まさにその時だと思えます。

グローバル化が進み、世界に飛び出す子どもたちには、新しいことに挑戦しようとする力、『まずはやってみよう』とする力が大切です。失敗したらやり直せばよいのです。やってみたら『案外うまくいった』ということも多いはずです。2学期もさらなる成長を期待しています。



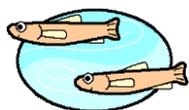
子どもたちを、見守ってください・相談してください

夏休み明けのお子さんの様子をよく見てください。様子が変わっていたり、悩んでいたり、困っていたり等、遠慮せず、躊躇せず、相談してください。担任はもちろんですが、他の教職員やスクールカウンセラー、様々な相談機関等、気になる事はすぐに相談してください。

令和6年度 第2回 長久保小学校 学校運営協議会

日時：9月24日（火）13時30分～ 2階研修室

学校運営協議会は、法に基づき設置されています。会議は、原則公開が定められており、傍聴を希望する方は、手続きに従って傍聴することができます。詳細につきましては、学校へ直接お問い合わせください。



学校の代表として広島に派遣されました



鶴ヶ島市の『広島市平和記念式典児童派遣事業』により、6年生、新井 結奈さんが、市内8小学校の代表児童と一緒に広島に行ってきました。平和記念式典への参加、平和記念資料館、原爆ドームの見学等、貴重な体験をしてきました。

『平和な世界をつくっていくために』

6年 新井 結奈

私には、大好きな曾祖母、ひいばあちゃんがあります。最近になって、よく話してくれるようになった「戦争中の話」「ピカドンの話」、食べ物はとても質素で、甘いものなんて何一つ無かった時代。それでも戦争に勝てば、平和で豊かな暮らしができるとみんなが信じていた。そんな時代の話の繰り返し聞いて、苦しい思いをした子供の頃の曾祖母と今の自分を重ねて頭の中で想像していました。

2024年8月6日、広島原爆投下から79年目の日に、私は鶴ヶ島市の広島市派遣事業に参加し、「令和6年広島平和記念式典」に出席しました。

実際に訪れて見た広島は、ビルが立ち並び、豊かな緑もあり、とても住みやすそうな街でした。こんな素敵なお街にも悲しい過去があります。今から79年前の1945年8月6日午前8時15分、この緑豊かな街に原子爆弾が投下されました。広島のお街は一瞬にして、灰色の世界になりました。沢山の人が亡くなり、爆心地付近は4000度近くもある強烈な熱線によって、生存者は、殆ど居ません。爆心地から3km以上離れた所でも、やけどで皮膚がただれ、負傷した大勢の人々が、もがき苦しみながら飲み水を求めました。やっとたどりついた川や用水路は放射能の海になっていて、沢山の人がその場で息絶えてしまいました。当たり前の日常が一瞬で奪われてしまったのです。

広島平和記念資料館を見学して、とても印象に残ったのは、ボロボロになった衣服や水筒、お弁当箱など、被爆者の遺品です。これを身に着けていた人は、当たり前の1日が始まり、お昼ご飯にお弁当を食べ、夜は家族の待つお家に帰る予定だったのでしょうか。そんな当たり前の日常を、当たり前に生きて、当たり前の明日を迎えるつもりだったと思います。今、令和の時代を過ごしている私は、食べ物に困ることもなく、便利なものに囲まれています。学校で授業を受け、友達と外で遊び、夜は、家族全員でお家の中で過ごす毎日を安心して暮らしています。そんな当たり前の生活が一瞬にして奪われてしまったらと思うと、とてもつらくて怖いです。今と昔、時代は違っても人々の幸せの形は変わらないのだと思います。

日本は、平和で豊かな暮らしを求めて戦争をした結果、何百万人もの方が亡くなりました。戦争中、今の私と同じ小学生の女の子だった曾祖母は、原子爆弾「ピカドン」を目の当たりにした時の恐怖、悲しみ、絶望の感情を79年経った今でもうまく言葉にすることができずにいます。亡くなった人の命は帰ってきません。人々の悲しみも何十年経っても消えてくれません。もし、79年前にタイムスリップすることができて、泣いている小学生の曾祖母に会うことができたら、「怖かったね。辛かったね。でも大丈夫だよ。未来は平和だよ！私たちが平和な世の中をつくっていくから！」と、声をかけて抱きしめてあげたいです。ですが、実際は、世界では今でも戦争がなくなる現実がありません。戦争は誰も幸せにしないのに、まだそれに気づけていない大人が、世界には存在します。まずは、私たち一人一人が身近にある小さな平和を意識していれば、この先の国際平和に繋がるのではないかと思います。

今回は、とても貴重な体験をさせていただき、大変勉強になりました。ありがとうございました。